

世子尚質の、清朝に帰順し、朝貢の延期を請う表

(一六四九、一一、一三)

琉球国中山王世子臣尚質、投誠の事の為にす。

伏して以うに、真人、撫運して再た大統の乾坤を闢き、聖主、招携して惟だ一介の文告を馳す。輯瑞して以て群后を朝し、一代の令典は維新し、遣使して以て諸邦を撫し、万国の具瞻の係わる攸なり。朝野を歓騰し、寰区を喜洽せしむ。臣質、誠惶誠恐、稽首頓首して、窃かに惟うに、無干にして苗格り、亘古不磨なり。豊に因りて崇降し、今に于て烈を為し、三代も迨ばんや。既に大道を降ること久しきかな。文教を彰らかにせず、宣ぶるを失いて武臣奇を用い、人は徳を見ずして惟だ威のみ聞こゆ。是を以て邇きは安んぜずして、遠きは至らず。茲に蓋し伏して皇帝陛下に遇うに、天を承け籙を御し、象を執り人に臨む。帝王の已淪の土宇を復し、宇宙の既墜の綱常を修め、皇極を建てて寰中を撫し、泰階を登りて天下を平らぐ。顧みるに柔遠と謂うは、乃ち創帝の盛典なり。而して修祠は開国の首務と為す。爰に勅使に命じて諸邦を歴招せしむ。臣の如き朽鈍なるも亦た恩光に沐し、敢えて休命に對揚し深仁に仰答せざらんや。太平を歌頌して華封の累祝を致し、闕庭に稽顙して越裳の九詠に効う。但だ天使の降臨の序は已に三秋に属し、而して芹曝の上陳の儀は一時に辨じ難し。招撫の轄を投ぜんと欲するも、恐らくは愆期の譴を冒さん。先ず、護送

の軸に脂さし、恭しく投誠の款を致す。伏して願わくは、至尊、天地の量を開き、猷琛は稍来祀に寛めんことを。小国の効順の誠に鑑み、霑沢は今の朝に渙なるを祈る。臣、天を瞻み聖を仰ぎ歡忭踊躍の至りに任うる無し。謹んで表を奉り、随使して以聞す。

順治六年(一六四九)十一月十三日 琉球国中山王世子臣尚質、

謹んで上表す

再對して之を正す

注

- (1) 真人 仙人、道の奥義を悟った人。
- (2) 撫運 運はみち、天体の周軌。撫はもつ、のつとる。
- (3) 大統 天子の位、皇統、国家統一の大業。
- (4) 乾坤 天地。天下。
- (5) 招携 招き寄せる。
- (6) 輯瑞 瑞(天子が諸侯を封ずる時に賜い、朝する際にこれをもつてしるしとする玉)をあつめる。諸侯を朝見すること。
- (7) 群后 諸侯。
- (8) 具瞻 衆人がともに仰ぎ見る。
- (9) 寰区 畿内。天下。
- (10) 喜洽 喜びがあまねくゆきわたる。
- (11) 無干…格り 強制しないのに人民が帰服する。無干はもとめない、かわりがない。
- (12) 亘古不磨 永遠にすたらない。
- (13) 豊に因りて崇降 豊は重ねる(なる)。崇降は嵩(崇に通じ)嶽降神の略か。天賦の厚いたとえ、また人が子を生むことを賀していうことば。

- (14) 烈 功業。
- (15) 三代 上代の三王朝(夏・殷・周)。
- (16) 籙ロク 天子の受禪の時にとつて天下を制御する符(予言書)。
- (17) 象 法。
- (18) 已淪 淪は没落する、ほろびる。已に一たびほろびたの意か。
- (19) 土宇 国土。
- (20) 綱常 人の守るべき大道。
- (21) 泰階を登り ここでは皇帝の位につくことをいう。泰階は星の名。上中下の三階の六星より成り、上は天子から下は庶民に及ぶまでをかたどる。
- (22) 修祠 礼をととのえ祭る。
- (23) 休命に対揚 君命にこたえ、その意を民に向つて宣揚する。
- (24) 越裳の九詔 越裳(ヴェトナム南部の古代国家)が中国に朝貢した時、九回通詔を重ねたとの故事。
- (25) 天使 順治四年六月、清より招撫使として通事謝必振が派遣され、順治六年九月に琉球に到つた。(〇九一〇一)(〇九一〇二) 参照。
- (26) 招撫の轄を投ぜん 招撫使の帰国をねんごろに留める。
- (27) 天地の量を開き (天地は公平であるのでそのように) 公平に判断を下して許す。
- (28) 猷琛 琛は玉・瑞。諸侯が朝することか。前注(6) 参照。ここでは方物を備えて朝貢することをさす。
- (29) 来祀に寛めん 来年まで延期する。
- (30) 霈沢ヘイズ 大雨。恩沢の多いたとえ。

1-14-02

世子尚質の、明の勅・印を返納し、帰順する表

(二六五三、二、二七)

琉球国中山王世子臣尚質、誠敬誠忤、稽首頓首して上言す。
 伏して以うに、聖武、布昭すれば、六合は揮鞭を視て宅と作し、
 王威、丕いに振い、兩階に舞羽を耀かして以て容と為す。声靈已
 に寰中に灌らかにして、謳歌乃ち海外に浹し。窃かに惟うに、潜
 徳の興王、古に放つて云う有り。天心もて治を眷み、今に於て烈
 を為す、と。是を以て殊方効順して咸く重詔の猷を懐い、異域投
 誠して共に朝宗の慕を切にす。況んや我が清朝、実に世徳を培う
 をや。三十載の修平遍く雲霓を慰め、十五国の馭除悉く風雨を調
 す。混同江上、紫氣、祥を□東の関に鍾め、広寧塞外、瑞星、天
 北の關に拱極す。茲に蓋し伏して皇帝陛下に遇うに、仁は日斧を
 涵し、義は月弧を満たす。□符を握りて以て六竜を御し、亦籙に
 応じて九鼎を定む。鸞旂高掲し、到る処に獲醜の雄を張り、鏑曲
 清吹し、所在に負固の魄を擗る。然り而して神威北暢し、抑且
 つ聖沢南流す。

前に丹詔を承け、既に投誠すれども後を恐る。茲に恩綸を捧じ
 て勅・印を繳して以て上呈す。望風して朔を拝し、中国の有聖人
 を吹め、雲を瞻みて賓を修め、盛京の真天子を快ばす。臣質、僻
 遠に居るを愧ずるも、爰ぞ休誼を頭揚するを補わんや。誠を傾け
 て向化し、敢えて微忱を祗肅むを攄ぶ。徒に測蠡して心に海若を